



e-La Voz

「エー・ラ・ボス」と読みます

HCJB『アンデスの声』 日本語放送 メールマガジン (第24号)

2004年11月19日発行

Happy Thanksgiving 感謝祭について

16世紀はじめ、ヨーロッパでは教会が最高の権威と力を持ち、個人の信仰はその下におかれていました。そのことが口火となり、ドイツを中心に宗教改革の炎がひろがります。その結果、「最高権威は神から人間に与えられたメッセージ — 聖書 — にあり」とする聖書信仰が確立されるのです。

17世紀になって、イギリスの聖書信仰に立つ教会グループが国家宗教の弾圧と迫害から逃れるためにアメリカ移住を決意。1620年8月、ピルグリム・ファーザーの名でしられる約百名の一行がメイフラワー号に乗り込んで理想郷アメリカをめざします。当時の大西洋横断の航海はまさに想像を絶するものでした。6日間の航海を無事終えたメイフラワー号は、11月9日無事アメリカ東海岸のニューイングランド州プリマスに上陸。早速新天地での生活がはじまります。しかし、長い航海の疲れのまま、すぐに迎えた冬は入植者たちには過酷で、一ヶ月目に6人、次の月には8人と死亡するものが続出し、春を待たずに死んだ者の数は、ついに祖国をあとにした約半数にあたる47人にのぼったのです。

寒さもやっとやわらぎ始めたころ、入植地に裸の上半身に腰布だけをまとった背の高い先住民が姿を現しました。開口一番、見事な英語で「Welcome」といいながら歓迎のしるしに両手をさしだしたのです。一同は驚きました。話をきくと、その地方に住むAlgonquin族のひとりで名前はSamoset。沖合いにきたイギリス漁船の船長から英語を習ったということでした。そのあと、Wampanoag族のMassasoit酋長も植民地をおとずれ、先住民と入植者がお互いに生活をかき乱されることがないようにと両者の合意で「メイフラワー契約」が結ばれます。4月はトウモロコシの植え付け期。先住民Squantが入植地で種まきを教え、茎がのびると、その間にカボチャを栽培させ、そのほかにも、鹿狩り、いちご摘み、ビーバーの毛皮のなめし方法などを手ほどきします。ヨーロッパ人が先住民から教えられたアメリカ大陸原産の農作物は、このほかにタバコ、じゃがいも、ピーナッツ、ココア、やまいも、いんげん、タピオカ、メロンなど数多くあります。今ではアメリカは世界最大の農産物輸出国になっていますが、その農産物の7分の4は先住民から教えられたものです。

夏が過ぎ、収穫の秋がやってきました。入植者たちの心には、この一年をふりかえって未知の国で無事に過ごせたことへの感謝、また豊かな大地からの恵みに対して、創造主である神への「感謝」の気持ちがわきあがってきます。と同時に自分たち入植者をこころよく迎え入れて、親身になって助けてくれた先住民に対する「お礼」の気持ちも強くなってきたのです。そこで、行政責任者であるWilliam Bradfordは休日を定め、Massasoit酋長を招いてささやかな集いを行うことにしました。ところが、予定日の一日前なのに早々と酋長は一族郎党総勢90人をひき連れてあらわれたのです。これには清教徒たちはとまどってしまいます。ご馳走を振舞うには、苦勞して貯めた自分たちの穀物倉庫を空にしなくてはならない。といって約束は果たさなければ。その悩みを知って知らずか、酋長は彼らの前で自分たちが持参した品物をひろげます。そこには、鹿5頭、七面鳥12羽、トウモロコシ・パン、トウモロコシ・プディング、そしてポップコーンまであるではありませんか。これぞ、まさに「持ち寄り会食」の第一号！ このとき丸3日つづいた民族、言語、習俗をこえたインターナショナル・ディナーが、世界ではじめての感謝祭となりました。そして、その慣習が今もひきつがれて、各国で祝われるようになっていったのです。

清教徒たちが持参した聖書は「感謝」のことばであふれています。信仰も「感謝」が原動力です。しかし、その感謝を忘れがちなのが人間です。人生をはじめるとあたり、私たちは尊いいのちを授かって歩きはじめました。自分で自分のおむつを取り替えた人はいません。育ててくれた親への感謝、困った時に助けてくれ、病んだ時に祈ってくれた友への感謝、数多くの好意を寄せてくれた人々への感謝を忘れてはなりません。そして、何よりも人間を愛してくださっている神さまの前に謙虚に立ち止まって、すべてが神の創造の御業になるものであることを、静かに思い起こそうではありませんか。

“全地よ。主に向かって喜びの声をあげよ。喜び歌いつつ御前に来たれ。
知れ。主こそ神。主が、私たちを造られた。私たちは主のもの、主の民、
その牧の羊である。感謝しつつ、主の門に、賛美しつつ、その大庭に、はいれ。
主に感謝し、御名をほめたたえよ。主はいつくしみ深く その恵みはとこしえまで、
その真実は代々に至る”

感謝の賛歌 (旧約聖書 詩篇 100篇)

在 住 尾 崎 一 夫 久 子

次号予告:

突然ですが、私たちは、1月20日から一ヶ月ほどエクアドルに「里帰り」することになりました。「アンデスの声」の年末恒例番組「HCJBコンサート」が今年も首都キトの文化会館でひらかれます。今年にはヘンデルの「救世主」からハレルヤ・コーラスを歌うことになり、総指揮の道夫を中心に全員懸命の練習に励んでいます。私もコンサートの模様や、ひさしぶりに訪れるキト周辺の様子、なつかしい人々との再会などを取材して、「キトこのごろ2004年版」を取材・編集したいと思っています。メルマガでは写真アルバムも添付する予定です。ひょっとしてその番組がHCJBから短波に乗っても放送されるかもしれません。次号にご期待ください。

【ホームページのご案内】

HCJB日本語放送のホームページ (<http://www.hcjb.org/japanese/>)には、リスナー・コミュニケーションのためのふれあいコーナー「フォーラム」(<http://www.hcjb.org/japanese/forums/>)と、メールマガジンのバックナンバーを揃えた「メールマガジン e-La Voz らいぶらり」(<http://www.hcjb.org/japanese/mmoz/>)のページがあります。どうぞご利用ください。

このメールマガジンは、HCJB日本語放送の管理するメール・リストに登録されている方に無料でお送りしています。

このメールマガジンをご覧になってのご感想やご意見、ご要望などは、[HCJB日本語放送](#)までお送りください。

また、このメールマガジンの配信停止、配信先変更、あるいは新規ご登録は、下の該当ボタンを選択し、必要事項をご記入の上、[この内容で送信する] ボタンをクリックして、手続きをお願いします。なお、**Netscape 6.2以降をお使いの場合、このメールマガジンに埋め込まれているご登録手続きの機能はご利用いただけません。**ご面倒ですが、[HCJB日本語放送](#)まで別途メールにてお知らせください。

配信の停止 (※重要:必ず現在メールマガジンの配信登録されているメールアドレスからご送信ください。)

配信変更先のメールアドレス
(※重要:必ず現在メールマガジンの配信登録されているメールアドレスからご送信ください。)

新規登録するメールアドレス

この内容で送信する

リセットする

※お送りいただいた内容はメールリスト・サーバにより自動的に処理しますので、余分な内容は一切入れないでください。
※このメールマガジンはコンテンツが大きいので、携帯電話への配信はできません。

Copyright © 2004 by HCJB. All rights reserved.



日本語ホームページ: <http://www.hcjb.org/japanese/>

Eメール: kozaki@hcjb.org

郵便の宛先:

Mr. & Mrs. Kazuo Ozaki

1920 Berkshire Pl., Wheaton, IL 60187-8050, U. S. A.